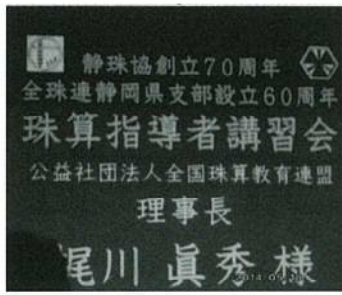


# 『全珠連・過去から未来へ』を聴講して

中遠地区 高梨 和司

五月十八日、私が全珠連の会員となつてから三回目の指導者講習会に参加させていただきました。当日は、静珠協創立七十周年・全珠算静岡県支部設立六十周年を祝福するかのような清々しい晴天に恵まれ、屋内のイベントをするにはもったいないほど。五歳と二歳の子供たちをつれてどこかに遊びにいきたいという衝動にかられつつ、会場であるホテルアソシア静岡に入りまし



た。さて、今年度の指導者講習会のテーマは「全珠連・過去から未来へ」。講師は全珠連・梶川眞秀理事長という事で、講演開始前の会場にはちよつ

とした緊張感が漂っているように感じられました。

組織のトップの考え方を直接聴くことができるチャンスは滅多にありません。私自身も緊張感を保ちつつ、貴重なお話をひとつでも聴き漏らすことがないように、集中してこの講演の時間を過ごさせていただきました。

講演は梶川理事長の自己紹介からスタート。いつもながらにユーモアを交えた理事長の軽妙な話術によって会場の緊張感も幾分やわらぎ、いよいよ本題の開始です。

## 〈過去〉

### 【全珠連の創立】

まずは全珠連の誕生について。全珠連立ち上げの昭和二十八年当時、交通の便も今とは比べ物にならないほど悪い中、創立準備会が招集されてからわずか六ヶ月という短い期間でこのような全国組織が立ち上がったのはすばらしいとのこと。現在行われている研究会、検定試験、競技大会、あるいは広報誌等の発行が組織の創立当時から行われているという事に驚くとともに、当時の先生方のそろばんに対する熱い思いを感じざるを得ませんでした。

また、創立から続く組織の基本理

念である「自主独立」。珠算人の自主独立と珠算に関する事業を名実ともに珠算人の手によつて行うという当時の先生方の強い思いを象徴するこの言葉を、これからもしっかりと受け継いでいかねばならないと強く感じました。

### 【検定試験制度の歴史】

二〇一四年五月時点で第三六一回という回数を積み重ねている検定試験。検定試験開始の挨拶をする、この数字の大きさに子供たちは一様に「えっ?」というような表情をします。

この三六一という数字の裏側、すなわち検定試験制度の歴史ですが、現在に至るまでにこれほどまでにその内容が改定されてきたということに、これまた驚きでした。

現在でも全珠連検定は珠算段位が七種目あり他団体の試験と比較して多いのですが、検定試験開始当時の段位はなんと十種目もあったというのです。当時から現在までの試験問題を一通り見てみたいという好奇心に駆られました。(どなたかお持ちの先生、いらつしやいますでしょうか)

### 【主要事業の歴史】

全珠連が行ってきた数々の事業の紹介を聴く中で、理事長が最も力を入れられていることのひとつが、学校教育における珠算教育の維持と拡充であることを感じました。

昭和五十年代、私が小学生の頃には算数の教科書には「そろばん」が採り上げられており、そろばんが教科書に掲載されていることは当たり前のことと思っていました。

ところが、その実現までの過程には「義務教育における珠算教育強化促進全国総決起大会」なるデモなどを通じ、多くの先生方の努力があったということを知りました。本当に頭が下がる思いです。

現在、珠算連合三団体を通じて、文部科学大臣を表敬訪問するなど、そろばんを小学校二年生の教科書に入れてもらえるように積極的に活動されているとのこと。ただ、英語教育の義務教科化など、小学校の授業時間の制約が厳しくなっていく中で、そろばんが生き残っていくのは大変なことで、相当努力をしなければならないのではないともおっしゃっていました。

そろばん学習者の低年齢化が進む中、そろばんが小学校二年生の教科書に採用されることは珠算界にとつてまさに画期的なことと大きな夢で